

研修機関	社会福祉法人 松の実福祉会 通所社会就労センター 松の実園
研修期間	平成19年11月1日～11月30日
所属・氏名	野々市町立館野小学校 林 和歌子

## I 研修目的

- ・ 障害のある人たちが、学校卒業後どのようなところでどのようなことをして働いているのか、実際に体験したり、障害のある人たちとコミュニケーションをとったりすることにより、社会的視野を広げ、今後の特別支援教育に活かす。
- ・ 障害のある人のニーズに応じた支援について学ぶ。

## II 研修内容

私が1ヵ月研修を行った松の実園は、知的に発達障害があるため、一般企業への就労が困難と思われる人、または、生活能力に乏しく情緒不安定などで、社会生活への参加に支障があると感じられる人の通所社会就労センターです。家庭から通いながら能力に応じた作業指導や日常生活訓練などにより、徐々に適応能力をつけて一般社会への参加を促すことを目的としています。

松の実園の日課は右記のようになっています。私は、1週間ずつ4つの作業班で利用者の皆さんといっしょに作業をしたり、利用者の皆さんの作業環境を整えたりして、支援員の方の補助を行いました。

<日 課>	
	登園
9:00	朝礼・ラジオ体操
9:15	作業
10:20	休憩
10:30	作業
12:00	昼食・休憩
13:00	体力づくり
13:15	作業
15:30	掃除
15:45	終礼
16:00	退園

### 1 下請け作業班（11月1日～9日、30日）

- ①箱折り
- ②箱の折り目をつける
- ③箱のチェックと結束
- ④ファイルにテープを貼る
- ⑤仕切りを組む
- ⑥割り箸の点検

### 2 自主生産作業班（11月12日～16日）

- ①クッキーやケーキの材料の計量
- ②おからをフライパンでいる
- ③クッキーの材料を混ぜる
- ④クッキーの生地を切る
- ⑤クッキーを鉄板に並べる
- ⑥クッキーのトッピング
- ⑦クッキーの袋詰め
- ⑧クッキーの袋に菓子名や原材料表示のラベルを貼る
- ⑨袋詰めされたクッキーの点検
- ⑩袋詰めされたネームプレートを点検し、袋をホッチキスでとめる

### 3 アルミ缶プレス作業班（11月19日～22日）

- ①アルミ缶の仕分け
- ②アルミ缶を機械でプレスする
- ③アルミ缶の回収

#### 4 ウェス作業班（11月26日～29日）

- ①衣類を袋から出し、シールや表示札を外し、布地の種類により分類する
- ②ボタン、ファスナー等を取り除き、古着を一定の大きさに切り、工業用ぞうきんを作る
- ③利用者の切った布を点検し、手直しをする
- ④おしぼりタオルの計量と結束

#### 5 その他

- ①帰宅時の送迎バスの添乗
- ②利用者の食事や排泄の介助

### III 研修成果

#### 1 生き生きと働く姿

松の実園で1ヵ月間研修を行い感じたことは、利用者の皆さんが一生懸命作業をしており、生き生きとしていることでした。18歳から70代という幅広い年齢層の方がおいででしたが、あまり年齢差を感じず皆さんとても仲がよく、和気あいあいとおしゃべりをしたり、作業をしたりしていました。朝の「おはよう。」に始まり、作業中も「〇〇さんががんばってるね。」「大丈夫や。」など言われてうれしくなるような言葉が多く、私自身も穏やかな気持ちで1ヵ月を過ごすことができました。支援員の方も大きな声を出したり、叱ったりすることがほとんどなく、いつも利用者の皆さんをやさしく励ましており、利用者の皆さんは安心して落ち着いて作業に取り組んでいました。大きな声や叱ることは情緒を不安定にさせかえって逆効果なようです。今までの自分を振り返るとあまりにも子どもたちに対してマイナスの言葉かけが多かったか反省させられました。相手の気持ちを考え、言われてうれしくなるような、がんばろうという気持ちになるような言葉かけをしていこうと改めて思いました。

利用者の中には、食事や排泄に介助が必要な人、言葉をはっきりと話せない人、読み書きができない人などいろんな人がおいででしたが、できることを活かして一生懸命作業をしていました。また、箱を折るのが速い人、クッキーの生地をきれいに棒状にしていく人、アルミ缶以外の物を瞬時に取り除く人、古着をあっという間に四角の布に変身させる人、私の目から見るとまさに職人技でした。同じ作業を毎日毎日そして何年もしているのが皆さん自分の仕事に自信を持ってやっているのが伝わってきてすばらしいなと思いました。

給料日の終礼時には、各作業班の支援員の方から業務報告や利用者の皆さんの評価報告があり、自他のがんばりをみんなで共有し、働く励みにしていました。自分にもできることがある、役に立っているという自己有用感があるからこそ安心して生き生きと働けるのだと思いました。

私は現在特別支援学級の担任をしていますが、学校では、できないことを少しでもできるようにさせたいという思いが強く今まで指導してきましたが、松の実園のようにできることを活かしながらステップアップしていくような指導をもっと心がけていかなければならないと思いました。

#### 2 ニーズに応じた支援

##### ①個に応じた支援

利用者の大半は、仕事をして工賃をもらうということを理解して真面目に黙々と作業をしていましたが、中には集中力が続かない人もいました。そのような人には、作業の量を少しずつ与えながらできたという満足感を味わわせる、作業内容を自分で選択させ作業意欲を高める、傍で励ましながら作業を見守る、出荷に

同行させ気分転換を図るなどの支援をしていました。人や声などが気になる人については、間仕切りを使う、壁に向かって作業をさせるなどの環境整備を行っていました。同じ作業をしている方が落ち着くという人には、毎日決まった作業を用意していました。また、工賃は1ヵ月ごとにもらうのですが、ある利用者については、「作業をがんばったら好きな飲み物が飲めるよ。」と励まし、工賃を日割りにして毎日帰りにお茶代として工賃を渡しているそうです。利用者のやる気や作業効率を上げるために個に応じた様々な支援をしており、とても参考になりました。

#### ② ケース会議

家庭とは毎日連絡帳を通じて連絡を密に取り合っていました。週に1回ケース会議を行い、1回につき一人の利用者について、個別支援計画に基づき適正な支援が行われているかを含め、今後の支援のあり方について全職員で話し合っていました。ケース会議の前には、家庭訪問を行い本人や保護者の要望や相談事などを聞いていました。作業班についても本人の希望や能力、適性、人間関係等を考慮して決め、ケース会議でもう一度見直しをしているそうです。学校と同様、家庭との連携や全職員が共通理解した上での支援体制が大切だと思いました。

#### ③ ガイドヘルプサービス（移動支援事業）

利用者の皆さんは、退園後もニーズに応じたガイドヘルプサービスを受けていました。例えば、運動不足解消のために散歩をしたり、プールに行ったりしている人、美容院に行く人、温泉入浴に行く人、カラオケに行く人など、一人ひとりのニーズに応じてヘルパーが行動を共にしてくれます。松の実園の職員の皆さんもヘルパーとして利用者のガイドヘルプを行っていました。白山市では、ガイドヘルプにかかる費用を市が全額負担してくれるそうです。このサービスを利用することで家族が付き添えない時でも安心して行動できるのでとてもよい事業だと思いました。

#### ④ 地域生活支援センター にじ（法人独自事業）

利用者の皆さんは、休日や家へ帰ってからなど余暇の過ごし方が苦手なようです。そこで、地域生活支援センターにじでは、希望者を募り、毎週水曜日の退園後に手作りタイム、ダンス、温泉入浴、ボーリング、カラオケなどを楽しむタイムケアや日曜サークル（12月は忘年会）のサービスも行っていました。皆さんタイムケアのある日を楽しみにしていました。

#### ⑤ グループホーム

利用者の皆さんの年齢が上がるにつれ、親御さんたちもさらに高齢化していきます。そのため、将来のことを不安に思っている人もいます。実際に親が亡くなった人のニーズに応じて平成7年にグループホームが設立されました。現在は、グループホーム2軒、ケアホーム（重度の人）1軒が松の実園のバックアップで設立され、利用者が入居しています。

松の実園では、利用者の皆さんのニーズに応じて様々なサービスや支援を行っていることがわかりました。利用者の皆さんはいろんなサービスや支援を受けることで、より豊かな生活を送られるようになったと思います。

### 3 地域との連携

松の実園は、地域と密接につながっていると実感しました。アルミ缶プレス作

業班やウエス作業班で取り扱うアルミ缶や古着のほとんどは、地域の企業や近隣の町会から回収していました。また、松の実園の前には回収かごが設置されており、地域の人たちがアルミ缶や古着を持ち寄ってくれます。私がアルミ缶プレス作業班で作業をしていた時も作業場へ近所の人や地域の商店の人がアルミ缶をたくさん持ってきてくれました。地域の民生委員の方も、月に1～2回ボランティアで作業を手伝ってくれていました。松の実園の取り組みに理解を示し、協力してくださる地域の方がとてもたくさんいることがわかりました。そんな地域の支援の輪がどんどん広がり松の実園の運営を支えているのだと思いました。そして、松の実園の職員の皆さんも地域とつながるために様々な努力をされてきたのだと思いました。私も早速、家のアルミ缶を持っていきました。松の実園のことをできるだけ多くの人に知ってもらえるように、私も松の実園のことを子どもたちやいろんな人たちに紹介していきたいと思っています。

#### IV 今後の課題

特別支援学級を担任し、今までは児童のできないこと、苦手なことに目がいきがちで何とかできるようにさせたいという教師側の思いで指導してきましたが、松の実園での研修後は、もっと児童の気持ちを大切にしたい指導、児童のできること、好きなこと、よいところを活かす指導を心がけていかなければならないと思いました。そうすることにより児童はもっと生き生きと活躍できるのではないかと思います。また、児童にとってのニーズとは何か。今何が必要なのか。何を望んでいるのか。今までの支援は、果たして児童のニーズに合っていたのだろうか。もう一度じっくり保護者と話し合い、児童にとって今まで以上に学校生活が楽しく豊かになるようなニーズに応じた支援を考えていく必要があると思いました。さらに家庭と連携して学校や家庭内にとどまらず、どんどん地域の公園や商店などに出向き、地域のいろんな人とふれあいながら生活体験を豊かにしていくことが今後の課題であると思いました。

最後になりましたが、この研修を快く引き受けてくださった「松の実園」の施設長をはじめ、1カ月の研修中、常にやさしく親切に指導してくださった職員や利用者の皆様に心から感謝いたします。また、このような研修の機会を与えてくださった石川県教育委員会、野々市町教育委員会、館野小学校の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。